

第107回(昭和59年4月)講演大会講演募集案内 会告

申込(原稿同時提出)締切り 昭和59年1月9日(月)

注 意

講演概要の図・表・写真の表題ならびにその中の説明は英文となつておりますのでご注意ください。英文以外は訂正のため返送いたします。

本会は第107回講演大会を昭和59年4月1日(日)、2日(月)、3日(火)の3日間千葉工業大学において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和59年1月9日(月)までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演概要は英文化(所定のタイプ用紙1枚)し、Trans. ISIJに投稿できるようになつておりますので、多数ご投稿下さるよう併せてご案内申し上げます。

講演ならびに申込要領

- 講演内容 鉄鋼の学術・技術に直接関連あるオリジナルな発表
- 講演時間 1講演につき講演15分
- 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
 - 3) 商品名・略号等は表題ならびに本文いずれにおいても原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙(1600字詰)1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚まで認めます。(いずれも表、図、写真を含む)ただし編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
 - 8) 図、表、写真中の表題ならびにその中の説明は、英文といたします。
 - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
- 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
- 講演申込制限
 - 1) 講演申し込みは1人3件以内といたします。
 - 2) 連報講演は原則として一講演会あたり3報までとします。ただし連報形式として申込まれてもプログラム編成の都合により連続して講演できない場合がありますのでご了承下さい。
- 申込方法 本誌会告末に添付されている講演申込用紙ならびに受領通知ハガキに必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申し込み下さい。
- 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は(A)、(B)、(C)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、本誌会告末に綴られます)
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。

- 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
- 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。

8. 申込みの受理

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
- 2) 必要事項が記入されていない申込
- 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
- 4) 鉛筆書き原稿、文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当と認められるもの
- 5) 図・表・写真が英文でないもの

9. 講演原稿取り下げ

プログラム決定後の講演原稿の取り下げはお断りいたします

10. 申込締切日 昭和 59 年 1 月 9 日 (月) 17 時着信まで

申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。

11. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4

経団連会館 3 階(社)日本鉄鋼協会編集課
(電) 03-279-6021 (代)

~~~~~

**原稿用紙、合本ファイル有償頒布について**

- 1. 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴)  
1 冊 500 円 (〒350 円), 2, 3 冊 (〒700 円)
- 2. 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)  
1 冊 500 円 (〒350 円), 2, 3 冊 (〒700 円)
- 3. 講演前刷用原稿用紙  
鉄と鋼用 (1 枚 10 円),  
Transactions ISIJ 用 (1 枚 10 円)

郵送頒布の場合は下記のとおり枚数を限定させていただきます。なお 50 枚以上の場合は係までお問合せ下さい。

|                |      |      |      |      |       |         |
|----------------|------|------|------|------|-------|---------|
|                | 10枚  | 20枚  | 30枚  | 40枚  | 50枚   | 備考      |
| 鉄 と 鋼 用        | 340円 | 550円 | 650円 | 750円 | 1200円 | 料金は送料込み |
| Transactions 用 | 340円 | 440円 | 650円 | 750円 | 850円  |         |

- 4. 「鉄と鋼」用合本ファイル  
1 冊 250 円 (送料別)
- 5. 申込方法 ①原稿用紙の種類, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金 (切手でも可) を添えお申し込み下さい。
- 6. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4  
経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会庶務課

**講演分類**

| 製 鉄   |               |          |         | 製 鋼  |        |         |         |     |
|-------|---------------|----------|---------|------|--------|---------|---------|-----|
| 1     | 2             | 3        | 4       | 5    | 6      | 7       | 8       |     |
| 原料・燃料 | 製錬            | 耐火物・スラグ  | その他     | 精錬   | 鑄造・凝固  | 耐火物・スラグ | その他     |     |
| 分析    | 加 工 ・ シ ス テ ム |          |         |      |        |         |         |     |
| 9     | 10            | 11       | 12      | 13   | 14     | 15      | 16      | 17  |
| 分析    | 塑性加工          | 表面処理・防食  | 鑄造・粉末冶金 | 溶接   | 熱処理設備  | 計測・制御   | 環境管理・情報 | その他 |
| 材 料   |               |          |         |      |        |         |         |     |
| 18    | 19            | 20       | 21      | 22   | 23     | 24      |         |     |
| 基礎物性  | 熱処理・組織        | 強度・靱性・破壊 | 塑性・加工性  | 高温特性 | 腐食・耐食性 | その他     |         |     |

~~~~~

第96・97回西山記念技術講座

——快削鋼の製造技術の発展と品質の向上——

主催 日本鉄鋼協会

第96・97回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

I 期日 第96回 昭和59年2月15日(水)、16日(木)

東京 農協ホール(千代田区大手町1-8-3 TEL 03-279-0311)

第97回 昭和59年2月下旬

名古屋 名古屋通信ビル2階ホール(名古屋市中区千代田2-15-18 TEL 052-263-5221)

II 演題ならびに講演者

第1日

9:30~10:30	快削鋼の基礎理論と展望	(株)神戸製鋼所	荒木 透
10:40~12:10	快削鋼の切削性の評価方法	(株)神戸製鋼所鉄鋼生産本部	古澤 貞良
13:00~14:30	切削加工と工具技術の動向	東京農工大学工学部	竹山 秀彦
14:40~16:10	快削鋼の利用と効果	トヨタ自動車工業(株)第一生産技術部	桑原 昌博

第2日

10:00~11:30	硫黄快削鋼の製造と製品特性	新日本製鉄(株)第二技術研究所	赤沢 正久
12:30~14:00	鉛快削鋼の製造と製品特性	大同特殊鋼(株)中央研究所	木村 篤良
14:10~15:40	カルシウム快削鋼の製造と製品特性	住友金属工業(株)第三製品技術部	大野 鉄
15:50~16:50	特殊快削鋼の製造と製品特性	大同特殊鋼(株)中央研究所	中村 貞行

III 講演内容

1) 快削鋼の基礎理論と展望 荒木 透

快削鋼の由来と工学的意義についてまず概説する。つぎに、大別して、硫黄快削鋼、鉛快削鋼、脱酸調整快削鋼それぞれ冶金学的特質、機械的特性について述べ、その品質を左右する製造技術の背景となる基礎的理論に関連して解説する。さらに、被削性向上の機構について力学模型ならびに金属学的微視組織と塑性挙動との関連について考察する。

さらに、快削鋼の今後の発達について概観展望する。

2) 快削鋼の被削性評価方法 古澤 貞良

切削加工時の削りやすさの程度を表現するのに被削性の面からは、「被削性」という一つの材料特性値(?)が一般に用いられる。しかしこの「被削性」の持つ意味は非常に漠然としており、他の材料特性値、たとえば焼入性を示すJominy値のような明確な評価基準を持たない。これは被加工材の削りやすさが一つの基準では表現できない複雑な因子を含んでいるからである。すなわち「削りやすさ」の評価は、それぞれの切削加工様式(旋削、木づ切り他)や切削加工者の期待(仕上げ面粗さ、切りくず処理性他)などによつて異なる。本稿では、被削性の評価基準をどのように決定すればよいかを切削様式ごとに検討する。また被削性に及ぼす化学成分、介在物、顕微鏡組織および冷門加工等の影響についても言及する。

3) 切削加工と工具技術の動向 竹山 秀彦

各種工具材料とその適応性について述べ、ついで切削加工技術においては、自動化生産システムへの対応として、信頼性、加工精度、切りくず処理等の考え方と実際、先端技術への対応としては、超精密切削加工、難削材の切削、超高速切削等について述べる。最後に本分野における将来の課題とその対策について述べる。

4) 快削鋼の利用と効果 桑原 昌博

自動車のパワーユニット、パワートレインなどの構成部品に炭素鋼、合金鋼や特殊用途鋼を使用しており、部品ごとに工作機械を加工工程順に並べ、自働化された生産ラインで加工されることが多い。生産ラインの効率は、鋼材の被削性に大きく影響される。したがって、快削鋼が利用され効果を上げている。

そこで、ここでは、自動車部品に使われている快削鋼の種類と特徴及び生産ラインでの効果について述べる。また他の鉄系材料及び加工技術の進歩が快削鋼に与える影響を述べ今後を展望する。

5) 硫黄快削鋼 赤沢 正久

安価で効果的な快削性体与元素である硫黄を添加した快削鋼は、快削鋼として最も古くから製造され普及している鋼種である。硫黄は製鋼・圧延過程で種々のトラブルを生じやすく、また、使用性能に対しても多くの制約を加えることになる。硫黄快削鋼の製造条件とそれが被削性や使用性能に及ぼす影響、硫黄によつて被削性が改善される機構被削性評価法とその問題点などに関する最近の研究成果について概説する。

6) 鉛快削鋼の製造と製品特性 木村 篤良

鉛快削鋼が米国で開発されてすでに半世紀近くが経過し、その間我が国においては脱ガス・連続铸造等新しい製鋼

技術の導入により高品質・高信頼性の機械構造用鉛快削鋼が製造され、自動車、産業機械、精密機械、家庭電器、事務機器をはじめ、極めて広い分野に適用され、我が国産業の高度成長に大きく貢献して来た。鉛快削鋼は微小鉛粒が鋼中に均一に分散されているため広範な工具による切削において優れた被削性を示し、切りくずの破碎性が著しく良好でバリが少なく、機械的性質も通常鋼とほとんど変わらない。したがって、今後ますます普及するであろう機械加工工場の自動化・無人化に対応し得る鋼としてその活用が一段と期待されている。

本講演では、鉛快削鋼の製造に関する変遷、新しい製造技術と実績および今後の製造技術動向、また、各材料特性におよぼす Pb の影響についてその性質を述べ、鉛快削鋼の将来像についても述べる。

7) カルシウム快削鋼の製造と製品特性 大野 鉄

低融点介在物である、Ca を含む酸化物の、組成と脱酸条件との関係、これらの酸化物の組成が被削性に及ぼす影響、Ca 酸化物によつて被削性が改善される機構、機械的性質に及ぼす Ca の影響、実用鋼としての Ca 快削鋼の特徴と適用、について、これまでに明らかにされている成果を紹介する。

あわせて、Ca 酸化物以外の低融点介在物による、快削鋼の開発についても述べる。

8) 特殊快削鋼の製造と製品特性 中村 貞行

合硫黄軟鋼系から出発した快削鋼は、中・高炭素鋼、低合金鋼へと拡大されてきた。一方、快削元素としても鉛、Ca、Te、Ce、Bi 等がつぎつぎと適用され、これらの元素が単独または複合して添加されるようになった。各快削元素は被削性、機械的強度、耐食性など鋼の諸性質に対しておのおの異なる影響を与える。このため、用途上要求される性能に応じ、快削元素の種類および量の検討が行われ、さまざまな快削鋼が開発されてきた。また、快削元素の与える悪影響を他の元素の添加や不純物元素の抑制により改善する技術も発達してきた。

一般に快削元素は鋼の熱間加工性を劣化させるものが多く、熱間加工技術および熱間加工性改善技術の発達によつて各種特殊快削鋼の実用化が可能となつてきた。

本講演では、Te、Ce、Bi、Zr 等特殊元素を含有する快削鋼、ステンレス鋼、高 Mn 非磁性鋼、工具鋼、耐熱鋼、電磁材料、軸受鋼等特殊用途快削鋼の特性を紹介すると同時に、特殊快削元素の添加方法、快削鋼の二次精錬、造塊技術、圧延技術に関して述べる。

IV 聴講無料（事前の申し込み不要）

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

会費等納入についてのお願い

昭和 59 年度分会費等の納入期が近づきました。本会の事業は会費を主な財源として行われますので、会費は毎年 12 月に 1 年分を前納していただくことになっております。別送の郵便振替用紙にてお払込み下さいようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあつては幹事宛お支払い下さい。

記

	会費年額	入会金
正会員	9,000 円	900 円
学生会員	3,000 円	0 円
外国会員	8,000 円	800 円

鉄と鋼および Trans. ISIJ の両誌購読の追加特別料金は 4,000 円となっております。

宛先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

社団法人 日本鉄鋼協会

永年会員の特典について

当協会在籍 40 年以上かつ満 71 才以上の正会員はお申出により会費免除となりますので、庶務課までご連絡下さい。

東海支部

湯川記念特別講演会開催のお知らせ

日時：昭和58年12月12日(月)13:00～
 場所：名古屋大学工学部5号館2階講義室
 題目：「溶銹の脱磷処理」
 講師：東北大学名誉教授、新日本製鉄株式会社顧問
 不破 祐君

第6回 材料講習会—セラミック構造材料の
基礎と応用—開催のお知らせ

主催：日本材料学会、協賛：日本鉄鋼協会、ほか
 期日：昭和59年2月16日(木)、17日(金)
 会場：大阪科学技術センター8階中ホール
 (大阪市西区靱本町1-8-4、地下鉄四ツ橋線
 「本町」下車 北150m)
 定員：150名
 参加費：会員 一般 28,000円
 非会員 一般 38,000円
 申込締切日：昭和59年2月4日(土)

問合せ・申込先：

日本材料学会 (京都市左京区吉田泉殿町1番地の101
 電話 (075) 761-5321 番)

第15回 塑性加工春季講演会

(開催地：那覇市) 講演募集

共催：日本塑性加工学会・日本機械学会
 協賛：日本鉄鋼協会、ほか
 開催日：昭和59年5月15日(火)～18日(金)
 5月15日(火) 見学会
 会場：自治会館(〒900 那覇市旭町14
 電話 0988 (62) 8181～5, なお、航空運賃は
 約44%引き)

講演申込締切日：昭和59年1月25日(水)〈必着〉
 論文集原稿提出期限：昭和59年3月5日(月)〈必着〉
 講演申込整理費：1講演につき 3,000円

問合せ・申込先：

社団法人 日本塑性加工学会 (〒106 東京都港区六本
 木 5-2-5 トリカツビル3F 電話 03-402-0849)

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ：再結晶・粒成長

原稿締切日 昭和59年3月9日(金)

これまでの性質関係の多くの特集号が「材料」を対象としていたのに対し、今回は「現象」を対象とした表題のようなテーマの「特集号」を企画いたしました。

本特集号には下記のような内容を含めたいと考えております。また対象も電磁鋼や加工用鋼板を始め、条鋼、厚板、あるいは非鉄材料まで含めます。再結晶・粒成長を対象とした論文の投稿を歓迎いたします。

- ・加工組織と再結晶核生成、その場再結晶
- ・再結晶粒界の構造または性格
- ・粒界移動
- ・再結晶後の粒成長、二次再結晶
- ・結晶粒微細化と粗大化、混粒組織
- ・熱間加工と(動的及び静的)再結晶
- ・二相組織、混合組織の再結晶
- ・再結晶・粒成長挙動に及ぼす固溶原子と析出物の状態と役割

記

1. 原稿締切日 昭和59年3月9日(金)
2. 発行 鉄と鋼 第70年第15号(昭和59年11月号)
3. 原稿枚数 1) 論文は刷り上り8ページ以内(表、図、写真を含めて本会所定の原稿用紙40枚以内)
2) 技術報告は刷り上り7ページ以内(〃35枚以内)

(注) 原稿は本会投稿規程に基づいて執筆下さい。

原稿は編集委員会において審査されます。

4. 問合せ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3F (社)日本鉄鋼協会編集課 (電)03-279-6021(代)

(注) 投稿時、原稿表紙に「再結晶・粒成長」と朱書して下さい。

第2回(昭和59年度分)日向方斉学術交付金受領者決定のお知らせ

この度選考委員会及び理事会において下記10名に第2回日向方斉学術交付金を受領することを決定しましたのでお知らせします。

1. 大貫 惣明 北海道大学工学部助手
電子線照射した316鋼の結晶粒界における溶質偏析とボイド形成
第12回材料照射効果国際シンポジウム 1984年6月18~20日 ウィリアムスバーグ アメリカ
2. 小沢 泰久 名古屋大学工学部金属学科助手
液体中吹き込みガスジェットおよびガス粉体混相ジェットの羽口近傍における挙動
第4回PTD会議(複合吹錬) 1984年4月1~4日 シカゴ アメリカ
3. 高橋禮二郎 東北大学選鉱製錬研究所助手
直接製鉄用高圧シャフト炉の操作と数学的モデルによるシミュレーション
第43回製鉄会議 1984年4月1~4日 シカゴ アメリカ
4. 横川 清志 通産省工業技術院中国工業試験所主任研究官
高温高圧水素環境下における反応容器用2 $\frac{1}{4}$ Cr-1Mo鋼の定荷重下における水素損傷
第5回国際圧力容器工学会議 1984年9月9~14日 サンフランシスコ アメリカ
5. 吉葉 正行 東京都立大学工学部助手
高温硫化腐食環境中でクリープ-疲労相互作用を受けるNi基超合金の強度特性へのジグザグ粒界の効果
第9回国際金属腐食会議 1984年6月3~7日 トロント カナダ
6. 梅本 実 京都大学工学部助手
制御圧延によるフェライト細粒化の定量的予測
低合金高張力鋼の組織と性質に関する国際会議 1984年8月20~24日 ウォロンゴン オーストラリア
7. 武藤 睦治 長岡技術科学大学助教授
SUS304鋼溶接ボンド部における疲労き裂伝ば挙動
第6回国際破壊会議 1984年12月4~10日 ニュデリー インド
8. 鈴木 竹四 東京大学工学部金属材料学科助手
Ti添加低炭素鋼板の再結晶集合組織
第7回材料集合組織国際会議 1984年9月17~21日 ノルドウィハウト オランダ
9. 井上 明久 東北大学金属材料研究所助手
液体急冷法による非平衡結晶相超高強度鋼線の製造と機械的特性
第5回急速冷却金属の国際会議 1984年9月3~7日 ヴェルツブルグ 西ドイツ
10. 日野 光元 東北大学工学部金属工学科助手
Fe_tO-Na₂O系並びに固体鉄と平衡するFe_tO-SiO₂-Na₂O, Fe_tO-P₂O₅-Na₂O,
Fe_tO-P₂O₅-SiO₂-Na₂O系スラグの熱力学
冶金用スラグとフラックスに関する国際会議 1984年11月11~14日 レノ アメリカ

第12回(昭和58年度)石原・浅田研究助成金交付者決定のお知らせ

第12回石原・浅田研究助成金の交付者が下記の通り決定致しましたのでお知らせいたします。

1. 溶銑の炉外脱りん・脱ケイに関する熱力学的研究
山口 周 東京工業大学大学院
2. マンガン鉱石の熔融還元に関する基礎研究
井上 亮 東北大学選鉱製錬研究所助手
3. MgO-SiO₂-FeO系固溶体中のFeO活量測定
河原 正泰 熊本大学工学部助手
4. Fe-Cr 2元合金の強度特性に及ぼす時効微細偏析過程の研究
佐東 信司 東京大学工学部助手
5. 圧延加工における材料の三次元塑性変形の有限要素シミュレータの開発
森 謙一郎 京都工芸繊維大学 工芸学部助手
6. ステンレス鋼の照射脆化におよぼす粒界偏析の効果に関する研究
大貫 惣明 北海道大学工学部助手

欧文誌 (Trans. ISIJ) への講演概要 (第 107 回大会) 投稿案内

本会は会員各位の研究成果の発表の一つとして、講演大会を年 2 回 (春・秋) 開催いたしております。編集委員会では当講演大会をより良くするため、欧文誌を通して広く海外からの参加を呼びかけるなど種々検討を重ねております。

ご承知の通りわが国における鉄鋼生産技術は世界の注目を集めており、その成果及び動向が最も早く把握できる手段は当春秋講演大会およびその講演概要集であります。海外においても当講演内容には非常に関心が高く、本会への講演内容に関する問い合わせは相当の数にのぼっております。

以上のことから本会編集委員会で種々検討の結果、春秋の講演を早い時期に欧文誌で海外に紹介することは大変有益であるとのことから、昭和 55 年 1 月発行の欧文誌から講演概要 (英文) を掲載いたしておりますが、海外より大変好評をいただいております。今 107 回 (昭和 59 年 4 月) 大会は、下記により公募いたしますので、奮つてご投稿下さいますようお願い申し上げます。

記

- I. 副原稿 (コピー原稿) 締切日 昭和 59 年 4 月 25 日 (水)
- II. 原稿枚数 本会所定の原稿用紙 1 枚 (図、表、写真を含む)
(お申し出いただければ所定原稿用紙を送付いたします)
- III. 原稿内容 原稿は講演概要 (和文) の内容とまったく同じものを原則とします。やむを得ず内容が異なる場合は、改めて英文原稿の和文直訳を同封して下さい。
- IV. 執筆の仕方 執筆者がタイプされた原稿がそのまま約 80% 縮尺され、オフセット印刷されますので下記ご留意のうえご執筆下さるようお願いいたします。
 - 1) タイプライターはカーボンリボンを使用し (ファブリックリボンは不可)、活字は原則としてエリート (12 pitch) で single space (63 行)、2 段打ちにして下さい。
 - 2) 図、表、写真は縮尺を考慮し作成して下さい。
 - 3) 英文タイトルは講演申込用紙に記入されたものが英文校閲のうえ講演概要集に掲載されますので、そのタイトルに従って下さい。
- V. 原稿提出
 - 1) 投稿のさいは、最初に副原稿 (コピー原稿) 1 枚をご提出下さい。そのコピー原稿により英文校閲がなされ、その結果が編集委員会より連絡されますので、そのうえで本原稿を提出願います。
 - 2) 上記締切日以降は受け付けられません。
 注) 副原稿 (コピー原稿) とは、執筆要領にのつとつた形式でタイプされたもの、あるいは本原稿をコピーしたものです。
 注) 講演概要投稿後、投稿規程に従って Research Article として投稿されることを歓迎いたします。
- VI. 欧文誌掲載
 - 1) 掲載にあたっては英文校閲がなされますので、結果によっては英文修正を依頼することがあります。
 - 2) 欧文誌 (Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan), Vol. 24 (1984), Nos. 7~12 に亘つて掲載されます。
- VII 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課欧文誌係 (Tel. 03-279-6021)